

中条けいこに通信

平成26年度 第3回 定例会における 中条けいこの一般質問から

1. 協働のまちづくり推進のために

- ・協働のまちづくりのメイン事業の説明、進捗状況
- ・更なる協働のまちづくり推進のために考えていること
- ・補助金について

加須市では、同じ志を持つ者同士で活動を始めようとする時、具体的な活動を企画・立案する時、既存の活動をステップアップする時など、団体の成長に合わせた支援を目的に「はじめよう」部門24万円、「そだてよう」部門15～21万円、「いっしょに取り組もう」部門30万円などの補助金を利用することができます。更なる協働のまちづくり推進のためにぜひ活用し住みよい街づくりをしましょう。

2. 地域の拠点・公民館について

- ・公民館の目的・役割再確認、現状と今後
- ・運営の現状と今後について
- ・耐震化の方針と具体的な計画について

市長より「公民館は生涯学習、共に学び、自ら学ぶ場である。そういうことがちゃんとできる場所を地域地域に必要な施設として整備する必要がある。合併後の市の公共施設の状況が解って参りましたので、これから順次公民館も計画的に整備を進めて参りたい。そんなに先送りしても逆に耐震で問題になりますから着実に進めて参りたい。」との答弁です。

3. 市民の生命を守るために

(とねっとの有効活用)

- ・登録数、15歳以下の登録割合、進捗状況、課題
- ・救急病院とかかりつけ医の連携、病院での活用
- ・子育て支援医療費とのリンクについて

安定的な農業経営のための対策を求める要望書

加須市は、流域面積日本一の利根川の恵を受け、豊かな水と肥沃な土壌があることから古くから稲作農業が発展し、現在では県内一の米どころとなったところであります。しかし、小規模農家が多く、担い手不足や高齢化が深刻化し、また自然災害が発生する中で、食料供給力の向上と地域農業が維持発展のため、これまで生産者は多くの知恵と努力を重ね今日に至っております。

そのような中、2014年産新米が平年並みの収穫が見込まれる一方で、消費者のコメ離れで需要が減り、過去の在庫も積み上がっているため、米価が平年以上に下落し、生産者の多くの皆様より収入減による大打撃の声を伺い、不安の広がりを実感しております。

そこで、加須市の基幹産業である農業を持続・活性化し、農業の振興を図るために、本市におきましても2014年産新米激減緩和対策を取って頂きたいと願い、以下の要望をするものです。

記

1. 市独自の補助・融資制度を講ずること
2. 生産者と消費者を繋ぐ販売路拡大対策を講ずること

加須市長 大橋良一 様

平成26年10月3日



何でもお気軽にご相談ください。

中条けいこ 0480-68-4400 (TEL・FAX)

